

JMOOC 講座

1. 概要

インターネットを利用したオープン教育は、学生に対する学修補助効果、教育の質の向上が期待されるだけでなく、「大学の知」を社会に還元する社会貢献にもつながるものであり、本学の新たな「価値」「意味」を創出する役割を担うと考えられる。また、広報効果として、その性質から国内のみならずグローバルに本学の知名度を高めることが期待できる。

本学は2014年度より日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）に参加し、毎年1～2講座を開講してきている。2016年度は1講座をJMOOC公認プラットフォームにて開講した。

2. 利用状況

(1). 開講講座情報

講座名：世界に日本語を広げよう！～” そうだったのか” の日本語教育学～

講師：異文化コミュニケーション学部 教授 池田伸子

講座アシスタント：異文化コミュニケーション研究科生（言語科学専攻）1名配置

開講予定期間：2016年12月1日（木）～2017年2月8日（水）

受講登録者数：3,084名

受講修了者数：628名



図1：JMOOC講座コースカード

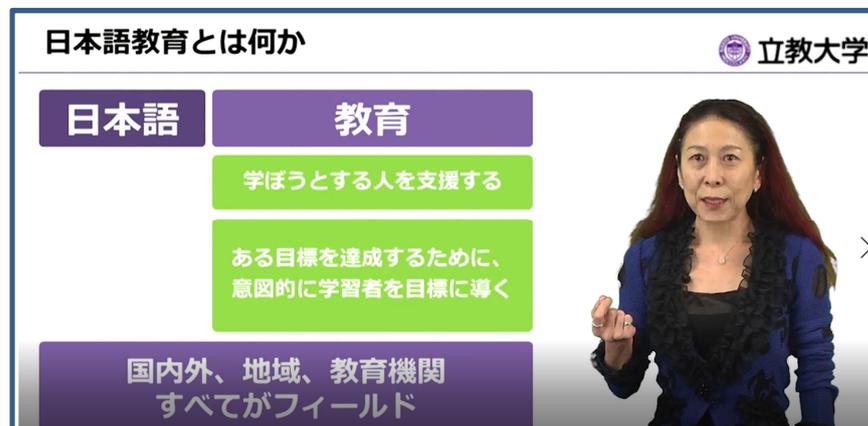


図2：JMOOC講座動画イメージ

(2). アンケート集計

受講者のWEBアンケート結果の集計は以下の通りである。なお、アンケートの回答は任意のため、各回答で合計数の差が出ている。

① 年齢分布

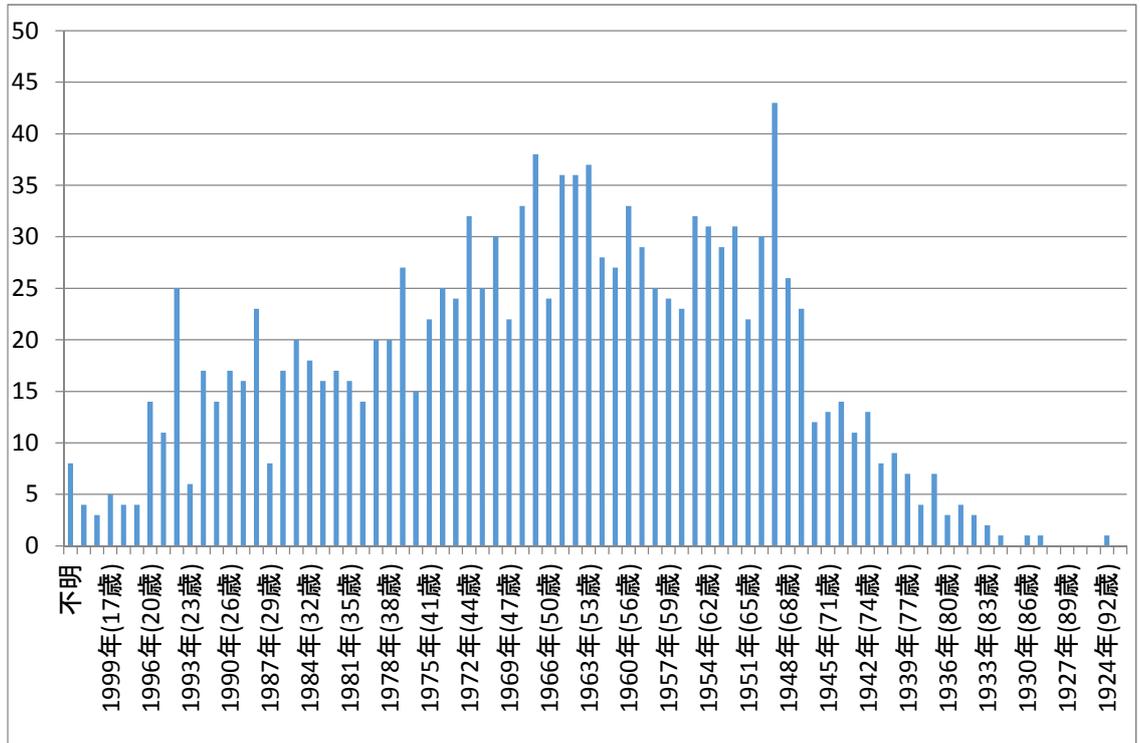


図3：年齢分布 (受講前アンケート結果)

② 職業

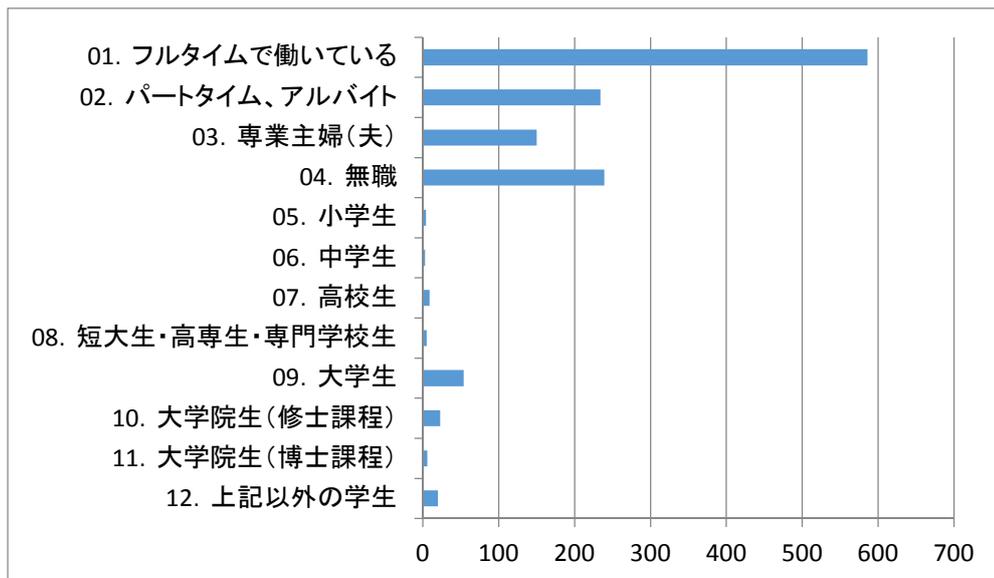


図4：職業 (受講前アンケート結果)

③ e-learning 受講経験の有無

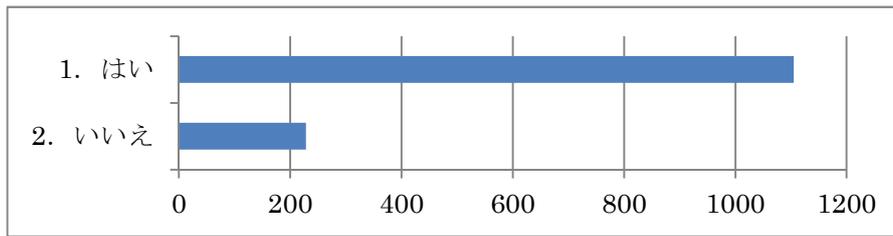


図 5 : e-learning 受講経験の有無 (受講前アンケート結果)

④ 受講経験がある e-learning の種類 (複数回答可)

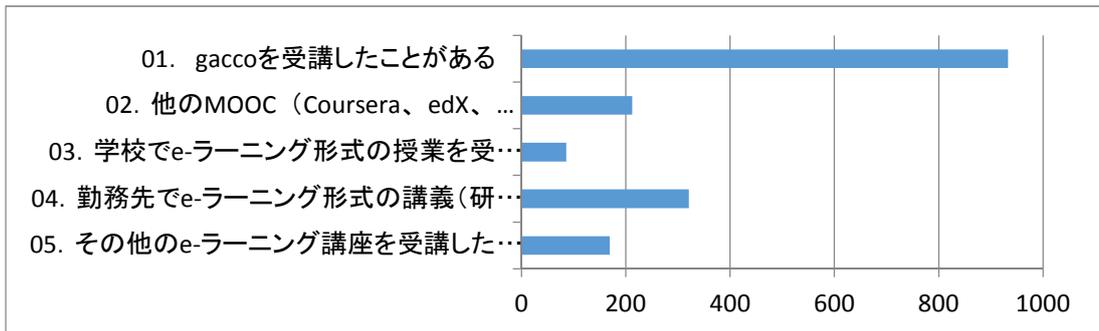


図 6 : 受講経験がある e-learning の種類 (受講前アンケート結果)

⑤ 本学との関係

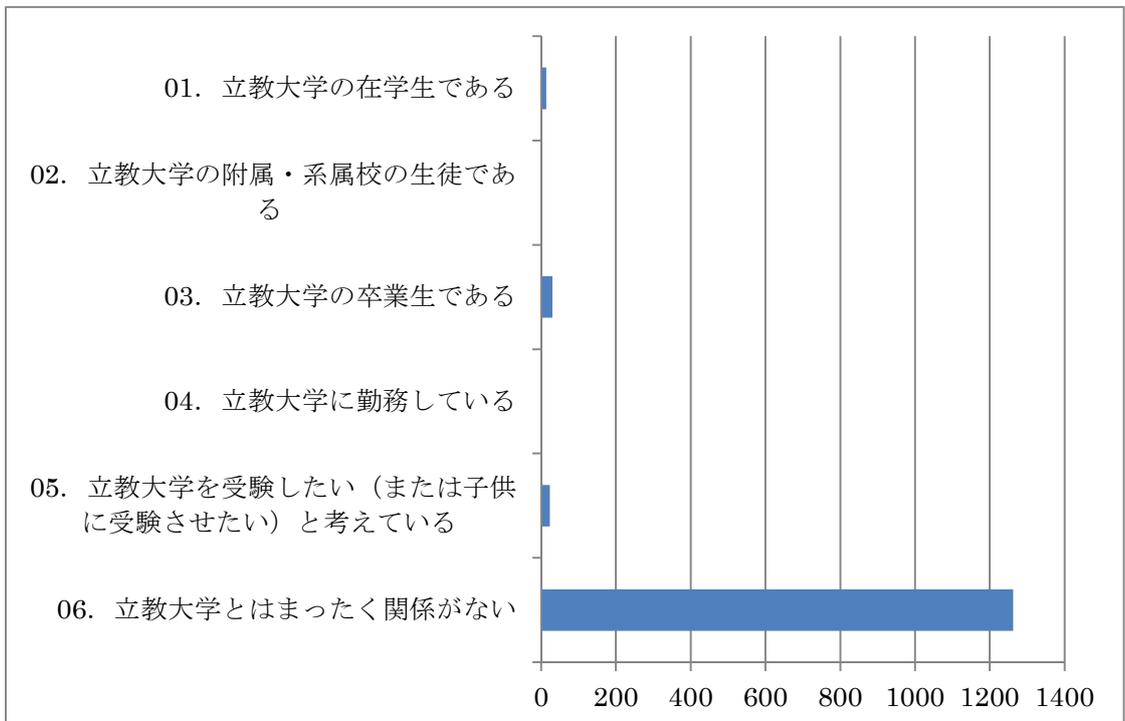


図 7 : 立教大学との関係 (受講前アンケート結果)

⑥ 受講満足度

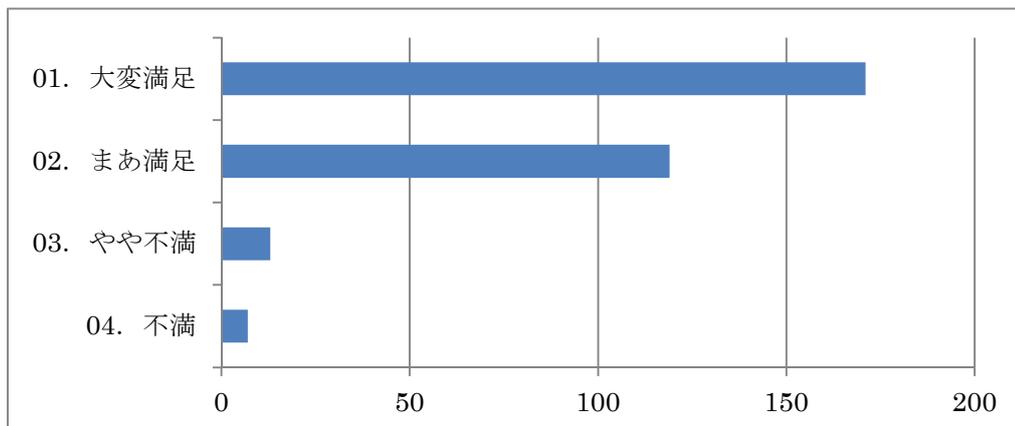


図 8：受講満足度（受講後アンケート結果）

3. 2016 年度のまとめ

本学では 4 講座目の JMOOC 出展であり、2016 年 6 月より講座準備を始め、9 月に講座撮影、10 月に課題設定などを終え、2016 年 12 月 1 日に予定どおり開講を迎えた。事前アンケートから伺えるとおおり、日本語教育および日本語教師への関心が高まっており、受講登録者数は 3,000 名を超えた。年末年始をまたぐ開講期間となり、運営側としてはディスカッション（掲示板）への対応に苦慮する面もあったが、受講者にとってはレポート作成に十分時間を取れた、年末年始は忙しいから避けて欲しい、と評価が二つに分かれた。

そのほかのアンケート結果からは、15 歳から 92 歳まで幅広い年齢層で受講があり（図 3）、e-learning 受講の経験者が多く（図 5、6）、主に本学とは関係がない受講者が 9 割を超えている（図 7）ことがわかった。また、本講座の受講後の満足度も非常に高く、自由記述欄にも多くのコメントが見られた。

JMOOC は 3 年目を迎え、出展される大学数・講座数が増えている一方、再開講の講座も増えてきている。日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）全体の動きとしては、経団連との連携し企業研修としての理工系基礎科目の講座を展開したり、海外 MOOC との連携（韓国、タイとの連携、海外への配信）を模索したりしている。大学会員としては、今後、単位認定の可能性を模索しつつ、高大接続と入試および入学前教育への活用、学生によるコンテンツ作成という広がりが期待できる。